

2013 年度
株式会社 成瀬理工
環境報告書



目次

1. 会社概要
2. 代表者挨拶
3. 業務内容
4. 成瀬理工の環境配慮
 - エコアクション 21
 - 環境目標
 - 環境実績
 - 勉強会
 - 資源回収ボランティア
5. 成瀬理工のこれから
6. 編集後記

1. 会社概要

社名 株式会社成瀬理工



設立 平成2年8月2日

代表取締役 成瀬 実

事業内容 科学機器や実験機材、試薬、医療品などの販売

資本金 3,100万円

所在地 本社 〒020-0066 岩手県盛岡市上田3丁目8-29

TEL 019-623-1256 FAX 019-654-4750

八戸営業所: 〒039-1114 青森県八戸市北白山台2丁目12-12

TEL 0178-70-4141 FAX 0178-70-2244

釜石営業所: 〒026-0043 岩手県釜石市新町8-20

TEL 0193-23-6684 FAX 0193-23-6524

北上営業所: 〒024-0004 岩手県北上市村崎野13地割25-8

TEL 0197-71-1630 FAX 0197-71-1631

社員数 30名(パート含む)

取得資格 毒物劇物一般販売業登録、医薬品卸売販売業許可、動物用医薬品販売業許可、農薬販売届、高度管理医療機器等販売業許可、医療機器修理業許可、特管2、3及び8区分、非特管1~9区分、計量器販売事業届(質量計)、高圧ガス販売業許可、古物商許可(機械工具)、エコアクション21認定

関連会社 有限会社 テック



経営理念

私たちは社業を通じ、文化を見つめ、人類の未来を開く真理の探究に貢献します。

私たちは社業を通じ、分析・測定の信頼を支え、パートナーと共に安心・安全な社会にします。

私たちはチームワークで、お客様と自らが喜びを感じ、成長する職場環境をつくります。

環境方針

社会の一員として、環境問題を誠実に捉え、
日頃の事業活動の中で環境保全に配慮して行動します。

1. 環境保全活動を推進するため、全ての事業所及び社員が活動できる環境管理組織を整備し、環境活動評価プログラムに積極的に参加し、これを運用・維持します。
2. 事業活動により環境への影響を的確に捉え、精査して廃棄物の削減(相対費 1%削減)、使用エネルギー削減(二酸化炭素排出量 0.3%削減)、コピー用紙の使用量削減(0.3%削減)を環境保全活動の目標に定め、これを実行します。
3. 環境に関する法規制及びその他の同意する要求事項を遵守し、事業活動に関わる全ての人や地域社会との調和に努めます。
4. 試薬を販売する事業活動を踏まえ、その保管・管理・出荷業務に於いて、環境保全に努めます。

2. 代表者挨拶

弊社が環境マネジメントに取り組み始めたのは、取引先からの環境に対する取り組み状況アンケートがきっかけでした。小企業にとって負担が少ない



エコアクション(公益社団法人全国産業廃棄物連合会策定)に取り組みました。平成17年4月、環境省策定のエコアクション21(一般財団法人持続性推進機構)に移行しました。

持続可能な社会を目指す為には、個人・家族・法人等のあらゆる単位で環境を意識した身近な活動をする事が大事です。

弊社は卸売販売業の為、企業活動の中で環境負荷の直接低減出来る範囲は限られてきています。

このような状況で今回、岩手大学の環境マネジメント実践演習企業としてお声を掛けて頂き、第三者の立場から弊社が今後取り組むべき参考の提言を頂ければ有り難いと考え、お受け致しました。

また、社内においても日常業務とは異なった外部の方との関わりを持つ事は日常活動をチェックする機会となりますし、演習に携わる学生の方々にとって社会活動の実際に触れ、自身の今後の活動に役立って頂ければ考えております。

地球環境は地球誕生から様々な要因で変化しながら現在に至っています。単に生きるだけで無く、考える事・活動を制御出来る人類は少なくとも持続可能な社会を目指すべきです。

個人・一企業だけで無く、地域を含めた関連する方々との協働によって、僅かな事の積み重ねが、大きな力や結果になると考えております。

弊社の活動が社会により役に立つものとなるよう取り組んで行きます。

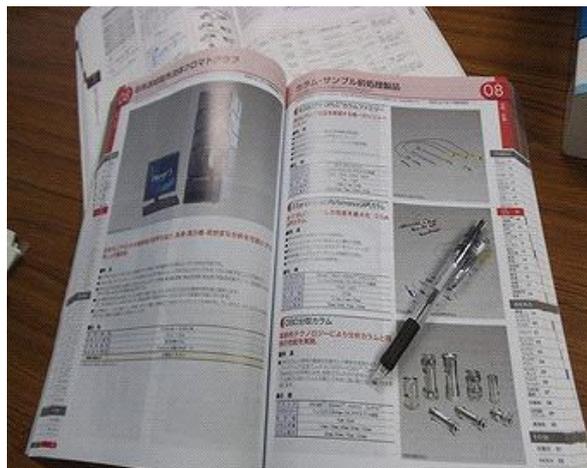
最後に、演習企業となった事で、弊社エコアクション活動チェックの機会となりました。演習に参加されました岩手大学の小野さん、海山さん、佐藤さん、高橋さん、指導された中島准教授、赤谷さん、そして紹介頂きました岩手県中小企業家同友会事に感謝すると共に、皆様の今後のご活躍を願いお礼とさせていただきます。

株式会社 成瀬理工
代表取締役 成瀬 実

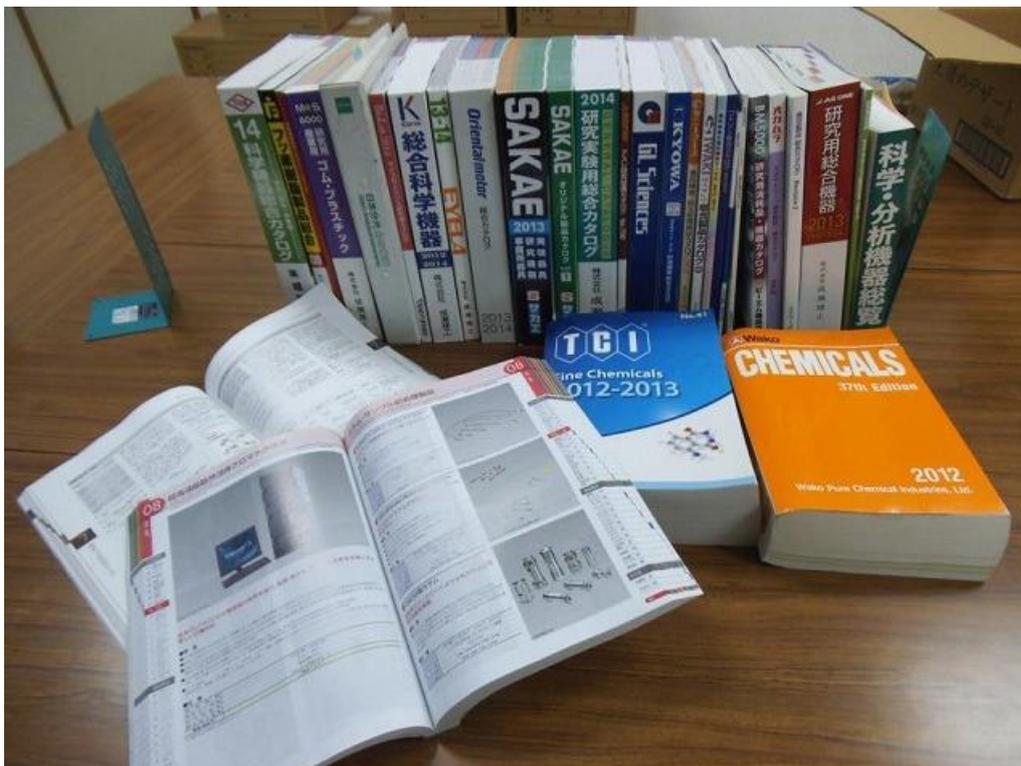
3. 業務内容

株式会社成瀬理工では、以下の商品を取り扱っています。

- ・科学器械
- ・分析機器
- ・電子計測器
- ・材料試験機
- ・環境測定機器
- ・バイオ関連機器
- ・海洋観測器
- ・理化学器械
- ・化学薬品
- ・各種実験器材
- ・生化学・分子学関連機器及び試薬



このように取り扱っている商品の数は多く、また、その種類も多岐にわたっています。



商品カタログの一部

お取引先は、国立大学、私立大学、国立工業高等専門学校、県立、私立短期大学、高等学校、国立、県立各試験研究機関、民間会社など幅広いです。

4. 環境への取り組み

▶ エコアクション21

株式会社成瀬理工では、エコアクション21の認証・登録を受けています。そのため、省エネルギー、省資源、廃棄物削減への積極的な取り組み実施や、それを実現するための環境マネジメント体制が確立されています。また毎年、「環境活動レポート」というものを作成し、環境活動計画の実施結果と評価、環境法規の遵守状況の確認、そして代表者による全体評価や次年度以降の取り組み内容などについてまとめています。

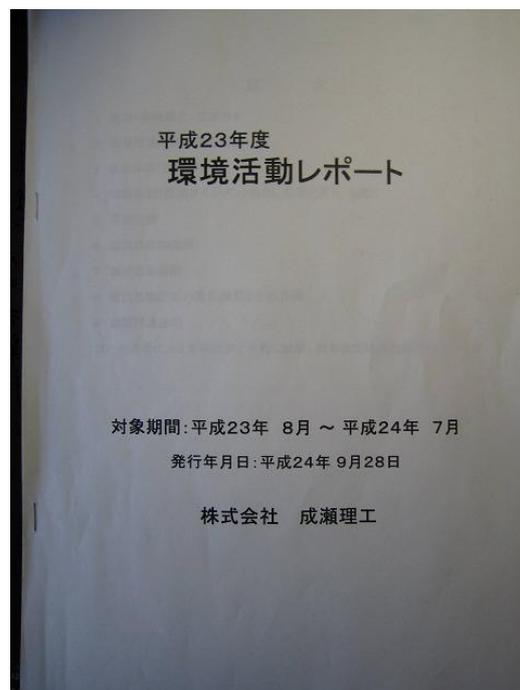
注) エコアクション21について

持続可能な社会を構築するためには、あらゆる主体が積極的に環境への取り組みを行うことが必要です。事業者は製品・サービスを含む全ての事業活動の中に、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等の取り組みを行うことが求められています。

エコアクション21は、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的、効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、取り組みを行い、それらを継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。

エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を、審査し、認証・登録する制度が、エコアクション21認証・登録制度です。

(一般財団法人 持続性推進機構 HP <http://www.ea21.jp/ea21/> より抜粋)



左側:エコアクション21の認証・登録証 右側:環境活動レポート(画像は平成23年度のもの)

具体的な環境活動計画について、いくつか紹介すると

- ・ ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレ等の照明は、普段は消灯し、使用時のみ点灯している。
- ・ 空調の適温化(冷房28度程度、暖房20度程度)を徹底している
- ・ 夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切っている
- ・ 打合せや会議の資料等については、ホワイトボードやプロジェクターの利用によりペーパーレス化に取り組んでいる。
- ・ 製品購入の際には、できるだけ HFC(ハイドロフルオロカーボン)、PFC(パーフルオロカーボン)、SF6(六フッ化硫黄)等を使用していない製品を選ぶように配慮している
- ・ 地域のボランティア活動等に参加し、協力や支援を行っている
- ・ 使用後の製品、容器包装等の回収・リサイクルに取り組んでいる
- ・ 納品の際の梱包、包装資材等の削減に取り組んでいる

etc...

紹介したのは一部であり、他にも多くの環境活動計画及び環境法規のチェック項目が存在します。

項目	取組内容	確認	評価	備考
その他 取組	印刷機については、定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理している	○	○	第1期
	長寿命のLED照明器具の導入については適正に管理している	○	○	第1期
	空調機については、フィルターの定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理している	○	○	第1期
	コピー機、プリンター等の機器については、エネルギー効率の高い機器を導入している	○	○	その他
	電気機器の定期的な点検やメンテナンスを行う等、適正に管理している	○	○	その他
環境 管理	有害性の化学物質については、その種類、性状、保管量、使用方法、廃棄場所等を安全管理体制で把握し、適切に管理している	○	○	管理係
	廃棄物の分別を行っている	○	○	第1期
	化学物質の安全性に関する情報収集のため、MSDS(化学物質安全データシート)により管理している	○	○	第1期
	化学物質の排出削減目標を設定し、削減活動を行っている	○	○	第1期
	外部からの情報提供、必要の情報に対する取り組みを行っている	○	○	第1期
グリーン購入	環境に配慮した物品等の購入を行っている	○	○	購入時
	環境に配慮した製品を優先的に購入している	○	○	購入時
	エネルギー効率の高い製品を優先的に購入している	○	○	購入時
	再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している	○	○	購入時
	環境に配慮した製品を優先的に購入、使用している	○	○	購入時

環境法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無
環境法規への違反、訴訟等の有無
環境法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無
環境法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

法令等の名称	項目	遵守状況	違反・訴訟の有無	違反・訴訟の状況
環境基本法	第1条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第2条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第3条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第4条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第5条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第6条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第7条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第8条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第9条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第10条	環境基本法の目的、基本理念、基本方針	○	○
環境影響評価法	第1条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第2条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第3条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第4条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第5条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第6条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第7条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第8条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第9条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○
	第10条	環境影響評価法の目的、基本理念、基本方針	○	○

環境活動計画及び環境法規に関する項目の一部

このように株式会社成瀬理工では、企業全体で環境に配慮した活動や体制作りに努めています。

➤ 環境目標

事業内容から過去データとの比較の上、定めた環境目標は次の通りである。

○中期目標は5年毎、短期目標は毎年見直しを行う。

○2009年度(平成21年8月～平成22年7月)の数量を基準として、二酸化炭素排出量及びコピー用紙使用量をそれぞれ受注数比で毎年0.3%低減させる。

中期目標

推進項目	2009年度 (基準年)	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
	平成21.8～ 平成22.7	平成22.8～ 平成23.7	平成23.8～ 平成24.7	平成24.8～ 平成25.7	平成25.8～ 平成26.7	平成26.8～ 平成27.7
廃棄物排出量(kg/100件)	51.8	1%削減	2%削減	3%削減	4%削減	5%削減
二酸化炭素排出量(kg/100件)	283.09	0.3%削減	0.6%削減	0.9%削減	0.12%削減	0.15%削減
コピー用紙使用量(kg/100件)	1.62	0.3%削減	0.6%削減	0.9%削減	0.12%削減	0.15%削減

短期目標

廃棄物量を受注数比で基準年比1%削減する。

二酸化炭素排出量を受注数比で基準年比0.3%削減する。

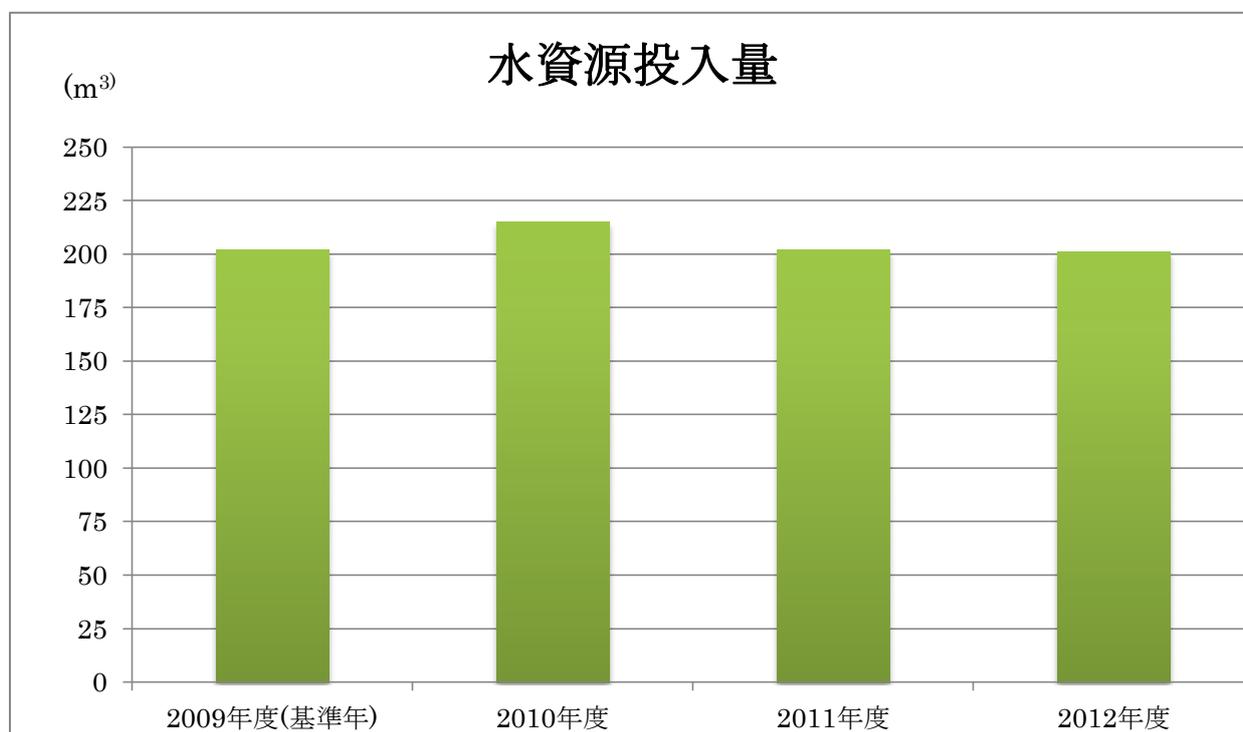
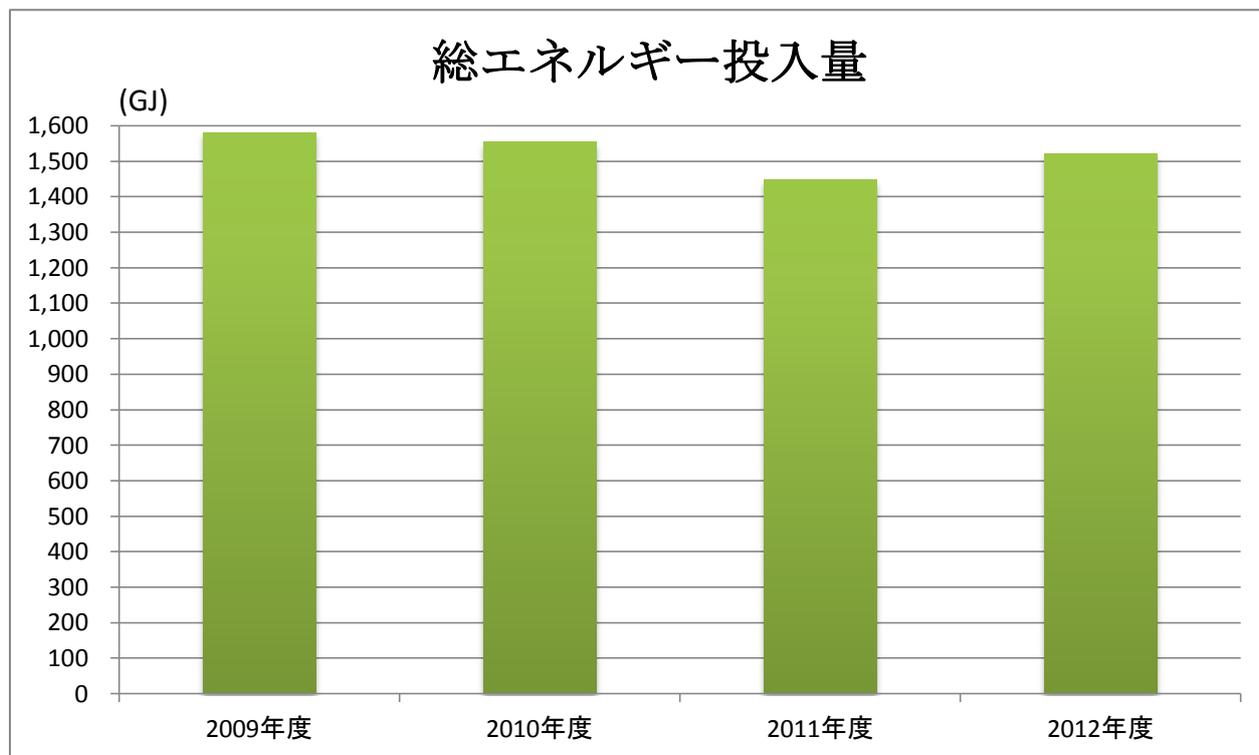
コピー用紙の使用量を受注数比で基準年比0.3%削減する。

水資源は節水を心掛け基準年の値を超えないようにする。

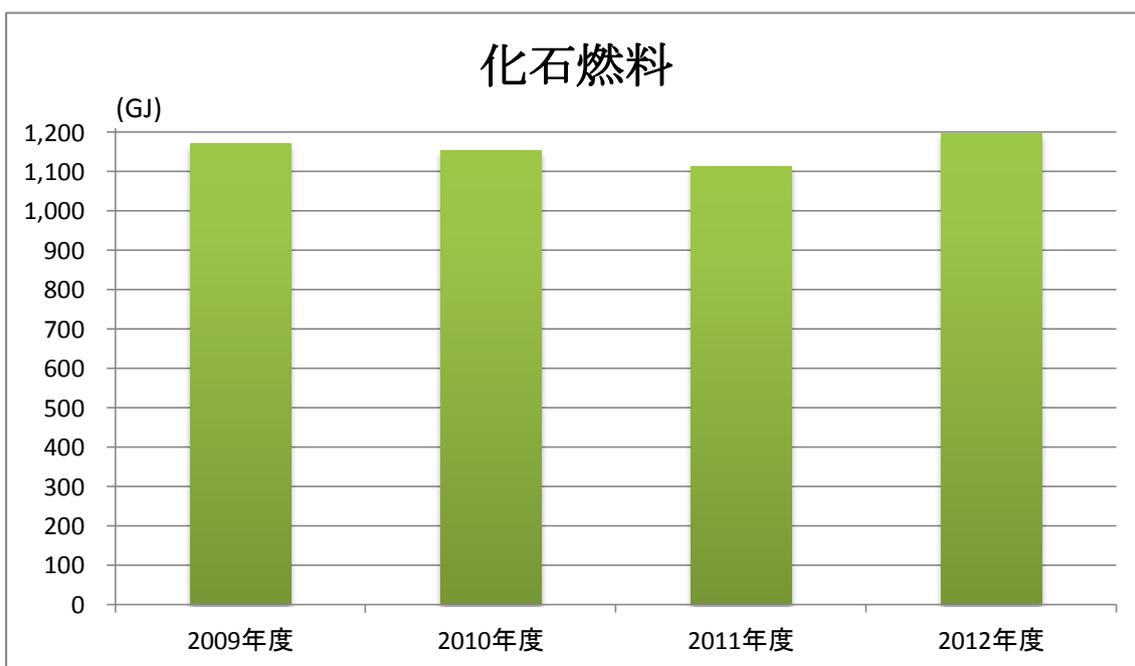
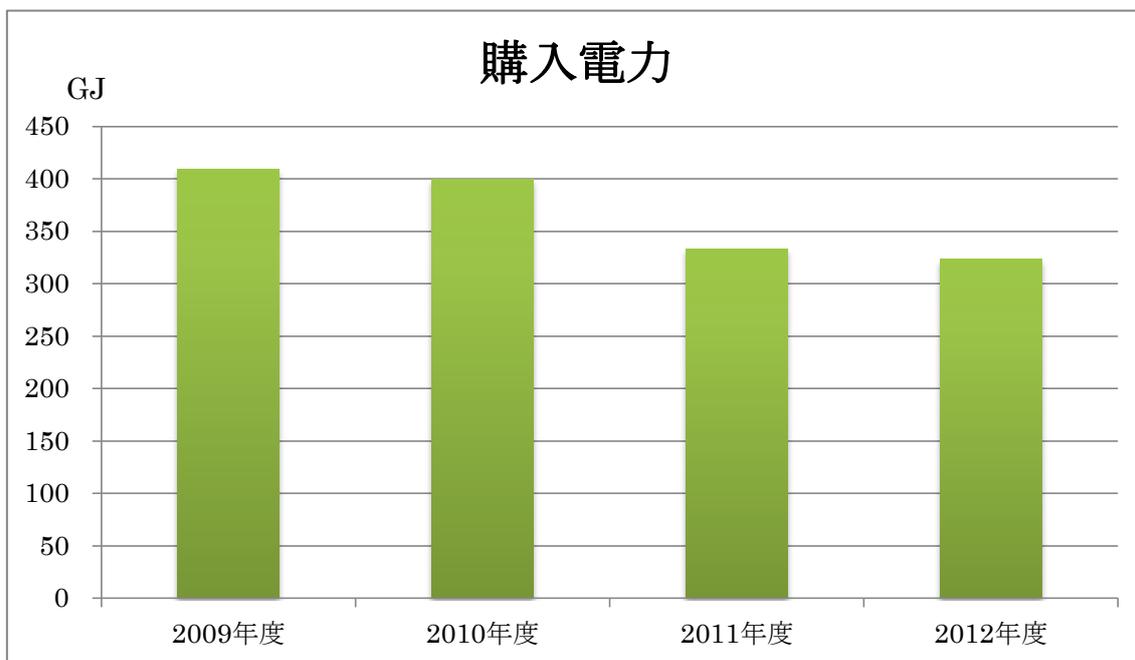
試薬の保管・管理・入出庫を徹底し環境保全に努める

➤ 環境実績（インプット項目）

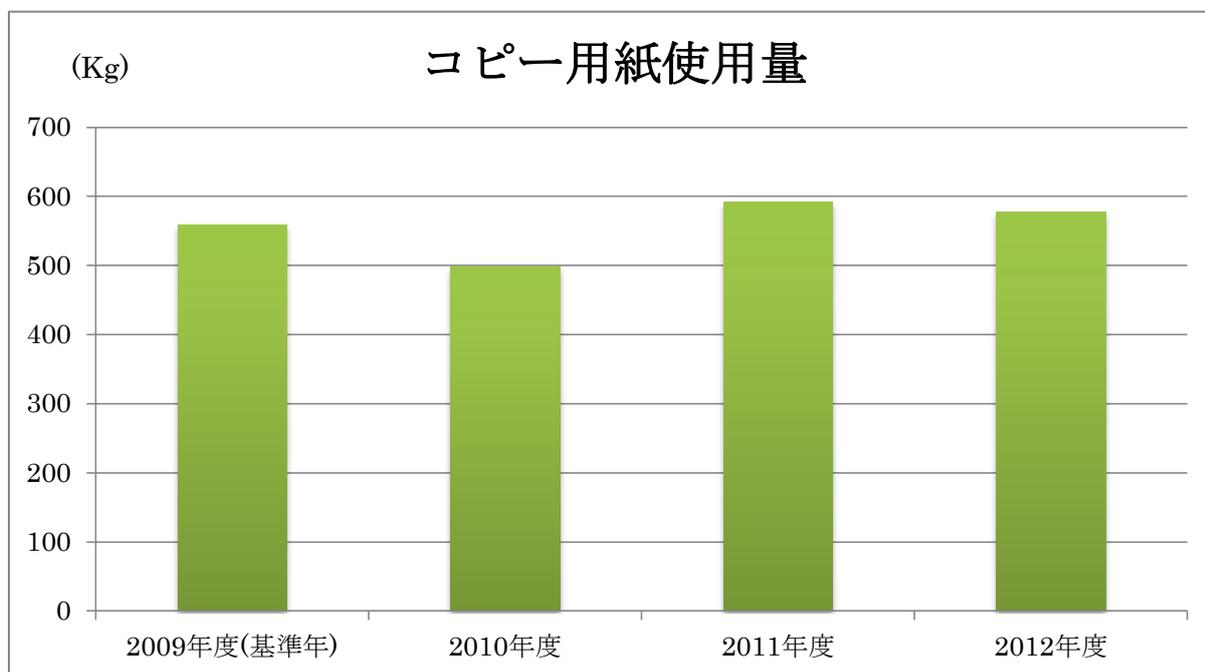
インプット項目	単位	2009年度 (基準年)	2010年度	2011年度	2012年度	09年度実数比or目標比	前年比
		実績	実績	実績	実績		
総エネルギー投入量	GJ	1,580.68	1,553.56	1,447.05	1,520.48	-3.81%	5.07%
受注数あたり	GJ/100件	4.59	5.04	4.58	4.47	-2.61%	-2.40%
水資源投入量	m ³	202	215	202	201	-0.50%	-0.50%
受注数あたり	GJ/100件	0.59	0.7	0.64	0.59	0.00%	-7.81%



エネルギー投入量	単位	2009年度 (基準年)	2010年度	2011年度	2012年度	09年度実数比or目標比	前年比
		実績	実績	実績	実績		
購入電力	GJ	409.1	399.84	333.14	323.33	-20.97%	-2.94%
化石燃料	GJ	1,171.58	1,153.72	1,113.91	1197.15	2.18%	7.47%



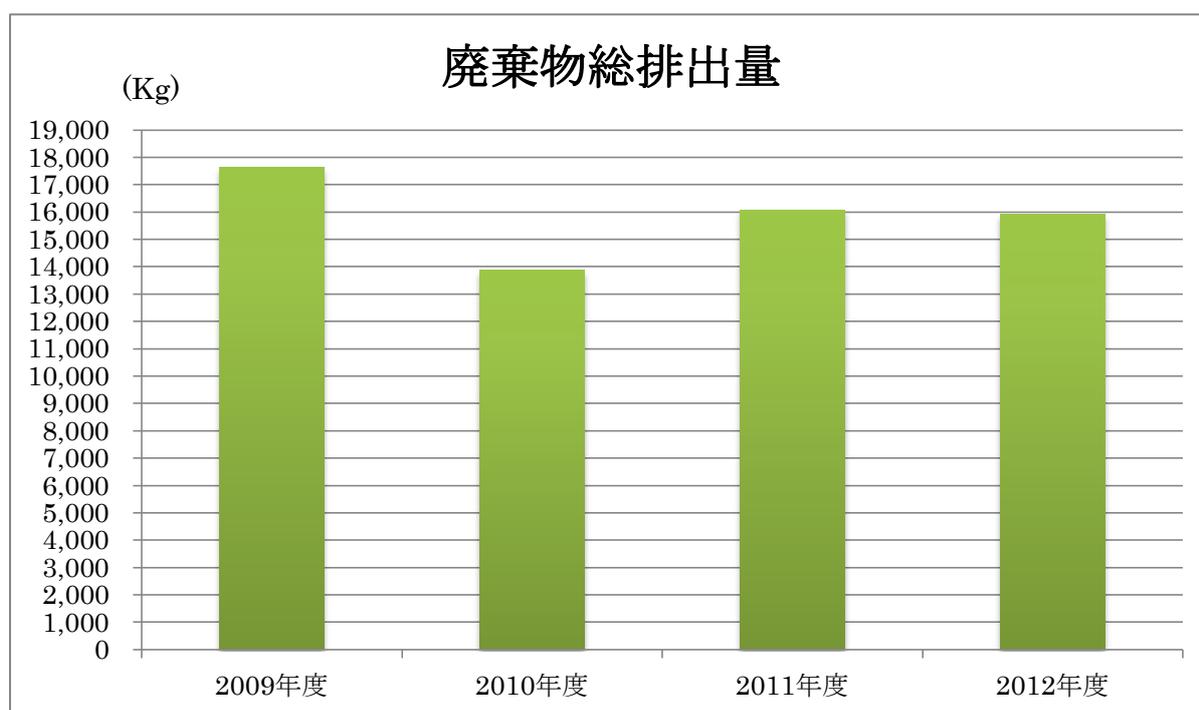
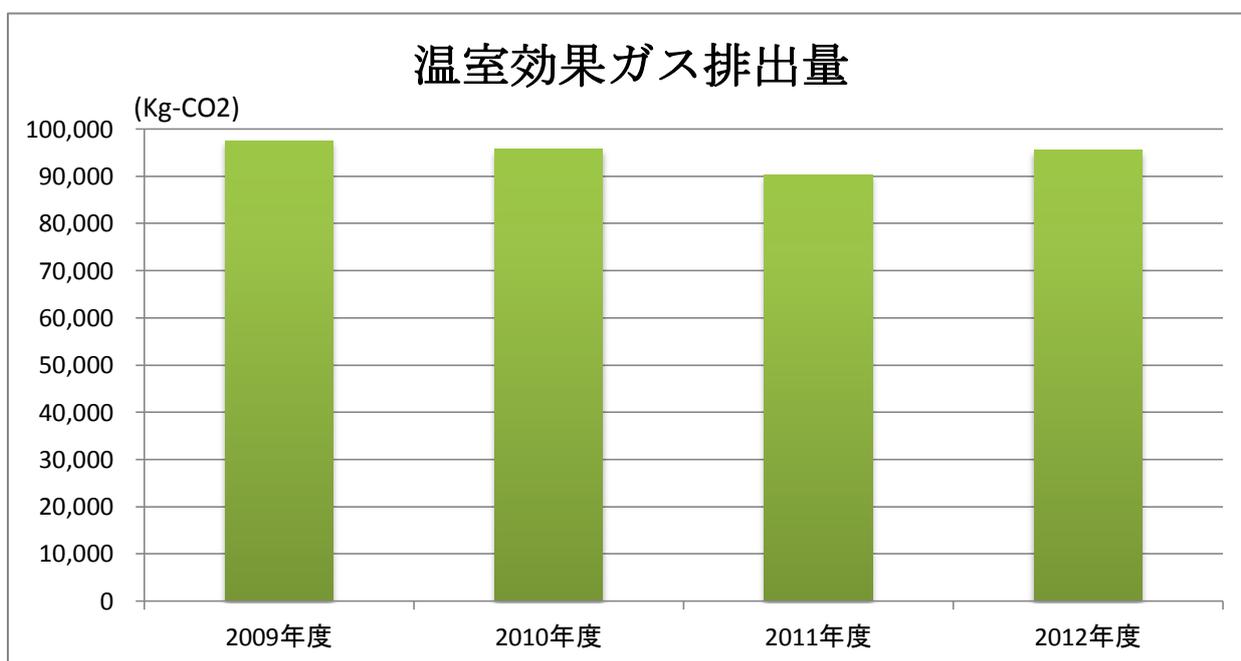
コピー用紙使用量	単位	2009年度 (基準年)	2010年度	2011年度	2012年度	09年度実数比or目標比	前年比
		実績	実績	実績	実績		
使用量	kg	558.85	498.06	591.52	576.53	3.16%	-2.53%
受注数あたり	kg/百万円	1.62	1.62	1.87	1.70	4.94%	-9.09%



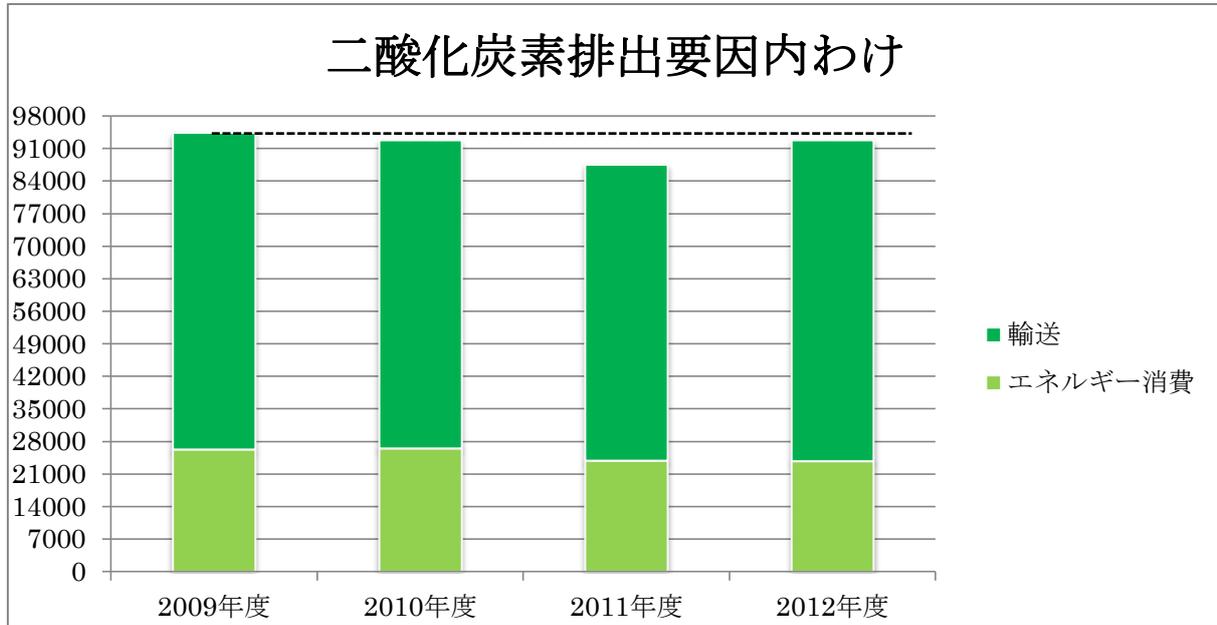
コピー用紙の使用量が11年度に大幅に増加していますが、これはプリンターの紙詰まりが発生し、裏紙の使用ができなかったことが原因となっています。

➤ 環境実績（アウトプット項目）

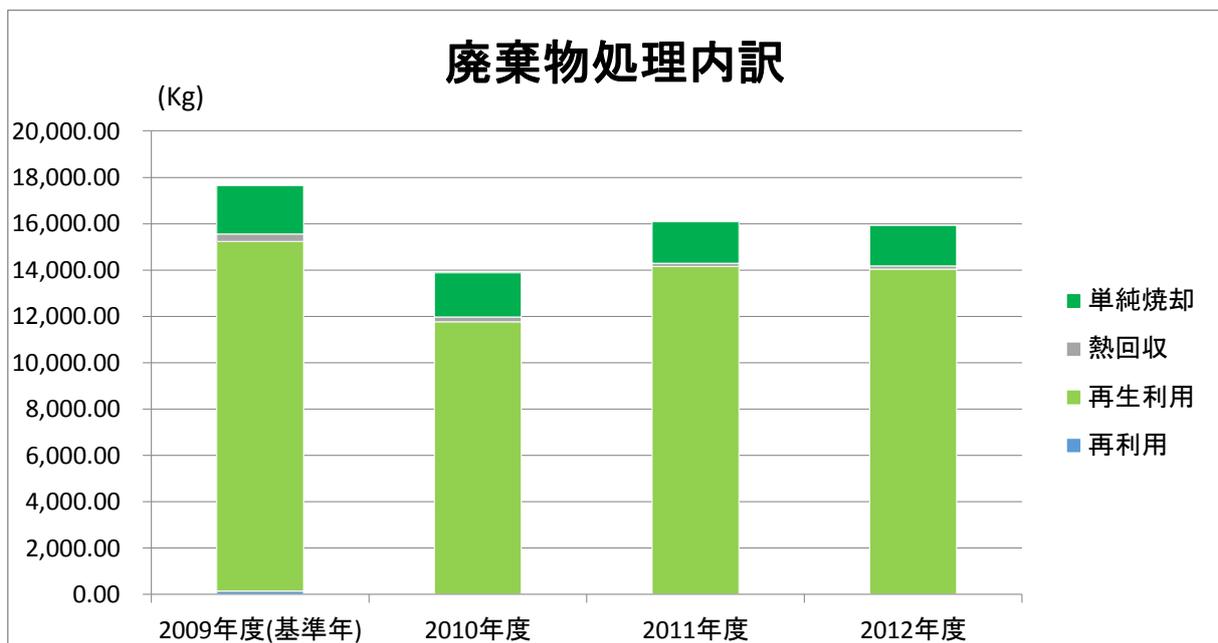
アウトプット項目	単位	2009年度 (基準年)	2010年度	2011年度	2012年度	09年度実数比or目標比	前年比
		実績	実績	実績	実績		
温室効果ガス排出量CO ₂ 換算	kg	97,568.79	95,741.51	90,380.79	95,580.66	-2.04%	5.75%
受注数あたり	kg/100件	283.09	310.51	285.8	281.16	-0.68%	-1.62%
廃棄物総排出量	kg	17,638.96	13,882.33	16,080.05	15,913.88	-9.78%	-1.03%
受注数あたり	kg/100件	51.18	45.02	50.85	46.81	-8.54%	-7.94%



温室効果ガス内訳	単位	2009年度 (基準年)	2010年度	2011年度	2012年度	09年度実数比or目標比	前年比
		実績	実績	実績	実績		
二酸化炭素	kg	94,395.87	92,861.00	87,586.64	92,794.6	-1.70%	5.95%
受注数あたり	kg/100件	273.88	301.16	276.96	272.97	-0.33%	-1.44%
メタン	kg	79.74	72.22	71.42	70.77	-11.25%	-0.91%
受注数あたり	kg/100件	0.23	0.23	0.23	0.21	-8.70%	-8.70%
一酸化二窒素	kg	3,093.18	2,808.29	2,722.73	2,715.29	-12.22%	-0.27%
受注数あたり	kg/100件	8.97	9.11	8.61	7.99	-10.93%	-7.20%



廃棄物処理内訳	単位	2009年度 (基準年)	2010年度	2011年度	2012年度	09年度実数比or目標比	前年比
		実績	実績	実績	実績		
再利用	Kg	130.00	0.00	0.00	0.00	-	0%
受注数あたり	kg/100件	0.38	0.00	0.00	0.00	-	0%
再生利用	Kg	15,101.75	11,760.26	14,153.00	14,041.61	-7%	-0.79%
受注数あたり	kg/100件	43.82	38.14	44.75	41.30	-6%	-7.71%
熱回収	Kg	329.60	201.50	131.00	138.90	-58%	6.03%
受注数あたり	kg/100件	0.96	0.65	0.41	0.41	-57%	-1.36%
単純焼却	Kg	2,077.61	1,920.57	1,796.05	1,733.37	-17%	-3.49%
受注数あたり	kg/100件	6.03	6.23	5.68	5.10	-15%	-10.22%



➤ 勉強会

従業員に向けた教育の一環として勉強会を行っています。

- 頻度

年一回

- 規模

営業所も含めた会社全体

- 目的

会社内での環境意識の啓発、従業員の知識向上

- 内容

テーマは毎回異なっていて、主にエコに関連した内容で行われています。

今年度のテーマは「エコドライブ」について。

商品の配送などで自動車を使用する頻度が多いため、環境負荷の少ない運方法などについての知識を共有しました。

漏えい、流出、盗難等した場合の措置

①通報体制を整備する。

・危害が発生した時に冷静な対処ができるよう、予め通報する責任者を設定しておきます。責任者がいない時どうするかも決めておきます。



通報する責任者の設定



盗難または紛失した場合などに警察に通報する。

グリーン購入

事業所で購入する事務用品やPC関係など出来るだけグリーン購入対象の製品を購入するようにする

事務用品等を購入する際はEA担当者と相談すること

自らが販売する製品及びサービスに関する環境配慮

これからは事業者自身がエコであるだけでなくその製品やサービスもエコであるダブルエコが求められる

自社販売製品に関しては省電力な製品等環境に配慮した製品を優先的にPRする

勉強会資料の一部。

エコドライブのほかに「毒劇物の取り扱い」や「グリーン購入」など様々なテーマで行われている。

➤ 資源回収ボランティア

町内会・子供会で行われている資源回収活動に協力し、地域に貢献しています。

● 頻度

月一回程度

● 背景

もともとは社長の成瀬さんが個人的に参加していた活動でしたが、2005年にエコアクション21を取得したことをきっかけに、企業としての立場から本格的に協力するようになりました。

● 役割

遠方への資源回収や、町内会長の家など決められた集積場所まで回収した資源を運搬すること。

資源回収に必要な軽トラックも地域内では成瀬理工にしかなく、さらに回収を行う地域には高齢者も多いため、活動の中でも大切な役割を担っていると言えます。

また、このボランティアを通して会社と地域の方々との交流が生まれています。成瀬理工では、科学機器や実験機材、試薬、医療品などの販売といった業務の内容から、普段は地域との接点を持つ機会はありません。資源回収活動への参加をするなかで、情報の交換をしたり、何気ない会話を交わしたりすることで、地域の方々との距離を縮め信頼を得ることができています。



資源回収の様子。地元住民や上田中学校の生徒と共同で行っている。

5. 成瀬理工のこれから

成瀬理工では、これまでも様々な環境取り組みを行ってきました。エコアクション 21 の中で細やかな活動計画を立て、実施し、確実にその成果を上げています。09 年度を基準として設定された環境目標も多少の増減を繰り返しながらも、達成あるいは達成直前というところまで来ています。成瀬理工の環境マネジメントシステムはうまく機能していると言えるでしょう。

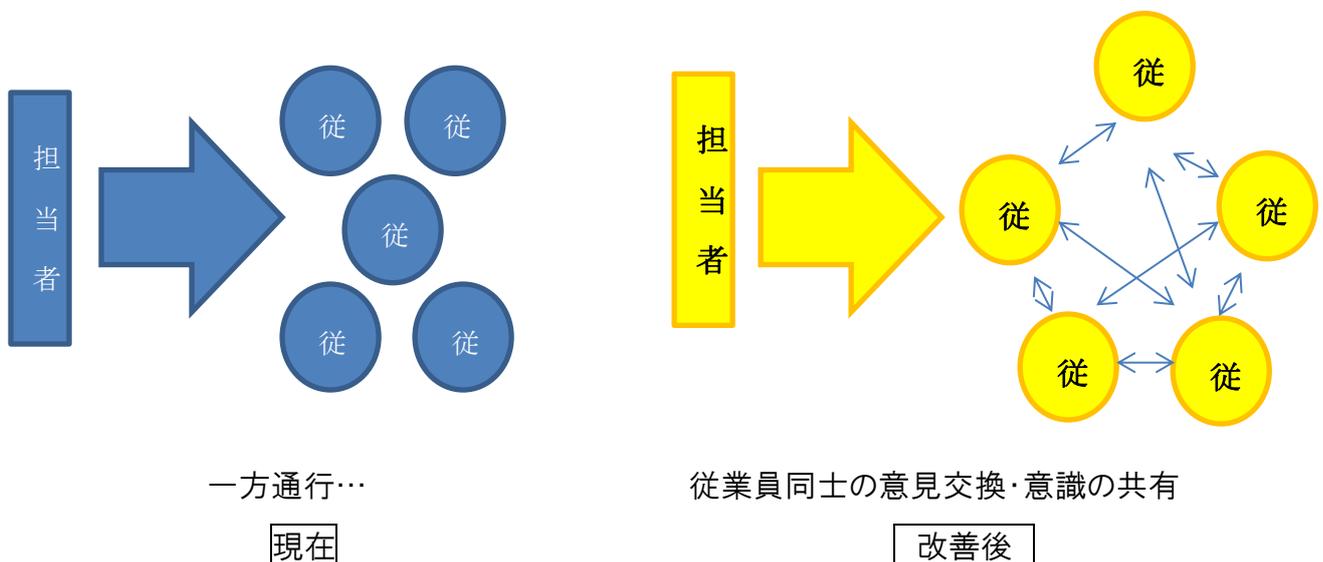
しかし、積極的な取り組みが行われている反面で、これ以上の活動に限界を感じており行き詰っているのも現状です。

そこで第三者として、学生としての立場から、報告書を作成していく中で気が付いたこと、改善できるのではと感じたことをいくつか提案させていただきます。

➤ 勉強会について

毎年行っている勉強会ですが、実際の行動にはなかなか繋がっておらず目に見える形で成果は表れていないのが現状だということでした。

現在の勉強会は、勉強会の担当者がいわゆる講義の形式で話をするという流れになっていますが、そのままでは一般の従業員は受け身になりがち。そうならないためには、一人一人が主体となって考えたり、お互いに意見を述べたりできる機会づくりが必要だと思います。たとえばワークショップやディスカッションなどを取り入れてみたらどうでしょうか。個人個人が会社や環境に対して何ができるかを改めて考えるきっかけをつくることで、会社全体の環境意識をより向上させることができるのではないかと考えます。



➤ カタログの電子化

成瀬理工から排出される紙類廃棄物のうち、約 30%を商品カタログが占めています。商品カタログを冊子のものだけでなく電子化されたものに切り替えることで紙類廃棄物の削減につながると考えられます。

分厚く重たいカタログは持ち運びにも不便ですし、処理もたいへんです。電子カタログになれば、営業ツールとして営業先などで有効に活用できます。さらに改訂や更新が簡単で、常に最新版を提供することが可能になり、また検索機能で目的の商品を素早く見つけることが可能になります。カタログが冊子として現場にあるほうが扱いやすい場合や、Web 上での表示になるので、端末がなければ見られないなどのデメリットもありますが、スマートフォンやタブレットの普及している現在ならば、時代に対応した情報提供の方法として冊子のカタログと併用していくことで電子カタログは十分機能するのではないかと思います。

➤ 環境活動レポート

成瀬理工ではエコアクション 21 での取り組み内容を報告書としてまとめた「環境活動レポート」を作成しています。このレポートは現在エコアクション 21 へ提出しているのみですが、web 上で一般公開などをすれば企業の環境配慮活動を広くアピールすることができるのではないのでしょうか。

今の環境活動レポートは、表や数字がほとんどなので、グラフを用いたりレイアウトを工夫したりすればさらに活動の成果が伝わりやすくなると思います。

6. 編集後記

今回、環境報告書の作成に携わることで、社会において企業に求められる環境配慮とは何かということを深く考えさせられました。成瀬理工様はもともと環境に対して熱心に取り組んでおり、エコアクション 21 の認証取得をはじめとする、節電、節水、社内での勉強会など環境負荷を減らすために努力なさっておられました。企業の環境活動に触れるのは新鮮であり、わたくしたち自身大変勉強になりました。環境報告書の作成の段階では、初め手探りのような形で始まりましたが、成瀬理工様への訪問を重ねていくにつれ、環境報告書の展望が徐々に見え始め、学生同士で議論、作業を行いながらより良い環境報告書の完成に向け活動できたと感じています。この環境報告書やインタビューを通して、成瀬理工様の今後の経営や活動に良い影響を与えることができたのであれば、嬉しい限りでございます。

今後の成瀬理工様のご活躍とご発展を願いつつ、最後にはなりますが、環境報告書の作成にあたり、親切に対応し、協力していただいた成瀬社長をはじめとする成瀬理工の皆様、本当にありがとうございました。

人文社会科学部	環境科学課程	2年	海山	宙也
人文社会科学部	環境科学課程	2年	小野	慎悟
人文社会科学部	環境科学課程	2年	佐藤	槇
人文社会科学部	環境科学課程	2年	高橋	健太郎

